

デジタルアーツ株式会社
(証券コード 2326)



2019年3月期 通期決算
(2018年4月1日～2019年3月31日)

補足説明資料
2019年5月9日(木)

2019年3月期 通期決算補足説明資料

決算のポイント

① 公共向け市場で総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まり 最高の売上高を更新

- 内部情報漏洩型のセキュリティ対策メーカーとして積み上げてきた実績と信頼性が評価され、標的型攻撃を含めた高度なセキュリティ対策が可能となる「i-FILTER」 Ver.10、「m-FILTER」 Ver. 5の販売が進む
- 企業向け市場に先行して、公共向け市場における総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まる

② 企業向け市場においても、潜在的な案件の獲得は進捗 25期に本格的な拡販を進める

- 新規案件の獲得は一定程度進捗するも、売上貢献の高い大規模案件は公共向け市場が先行
- 企業向け市場においても潜在的な案件の獲得は進んでおり、公共向け市場における事例を活用しながら、25期に本格的な拡販を進める

③ 「青少年インターネット環境整備法」改正に伴い、携帯キャリアを通じた フィルタリング導入が進む

- 2018年2月1日に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正され、従来から義務付けられている青少年に対するフィルタリング導入の運用がより厳格化
- 当該改正に伴い、携帯キャリアを通じたフィルタリング導入が進む

2019年3月期 通期決算補足説明資料

連結決算ハイライト

連結売上高

売上高： **5,841** 百万円 （前期比 +724百万円 / +14.2%）

公共向け市場で総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まった事、家庭向け市場の好調を主要因として、全社売上が大きく成長

営業利益

営業利益： **2,629** 百万円 （前期比 +726百万円 / +38.2%）

上半期において、グループの海外戦略の見直しに伴う再編費用等が発生したものの、経営資源の選択と集中効果が出始め、収益性が向上

経常利益

経常利益： **2,630** 百万円 （前期比 +721百万円 / +37.8%）

営業利益の成長に伴い、経常利益ベースでも増益となる

親会社株主に帰属する
当期純利益

当期純利益： **1,961** 百万円 （前期比 +679百万円 / +53.0%）

米国子会社清算に伴う税金費用の抑制効果により、純利益は大幅増益となる

連結業績

(単位：百万円)

項目	2018年3月期	2019年3月期	前期比
売上高	5,116	5,841	+14.2%
売上総利益	4,041	4,781	+18.3%
販売管理費	2,138	2,152	+0.7%
営業利益	1,902	2,629	+38.2%
経常利益	1,909	2,630	+37.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,281	1,961	+53.0%
ROE	22.5%	28.1%	—
1株あたり配当金	28.00円	48.00円	—

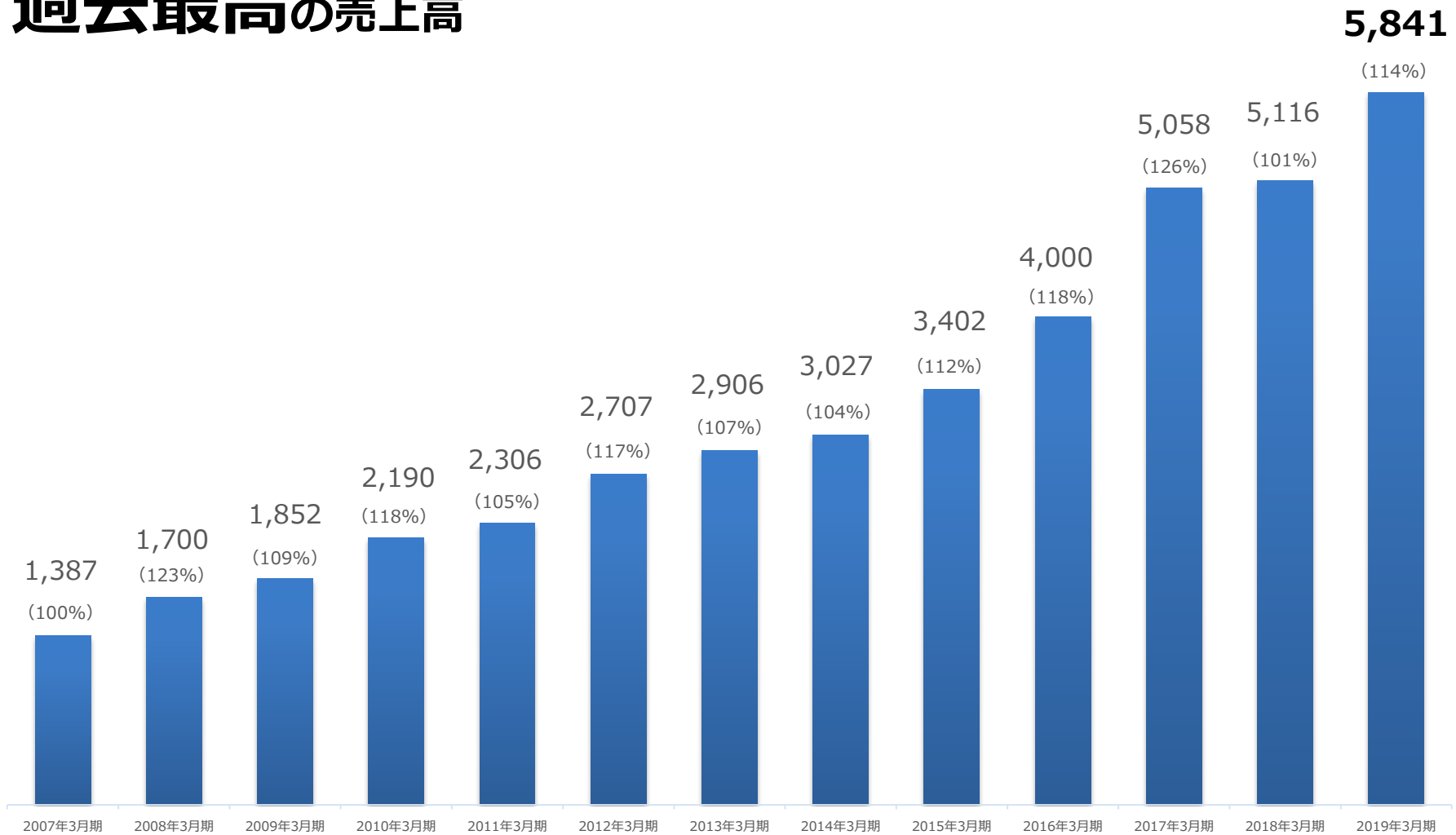
個別（単体）業績

(単位：百万円)

項目	2018年3月期	2019年3月期	前期比
売上高	5,046	5,752	+14.0%
売上総利益	3,986	4,724	+18.5%
販売管理費	1,898	1,949	+2.7%
営業利益	2,087	2,774	+32.9%
経常利益	2,097	2,777	+32.4%
当期純利益	860	1,784	+107.4%
ROE	14.1%	25.1%	—

(単位：百万円)

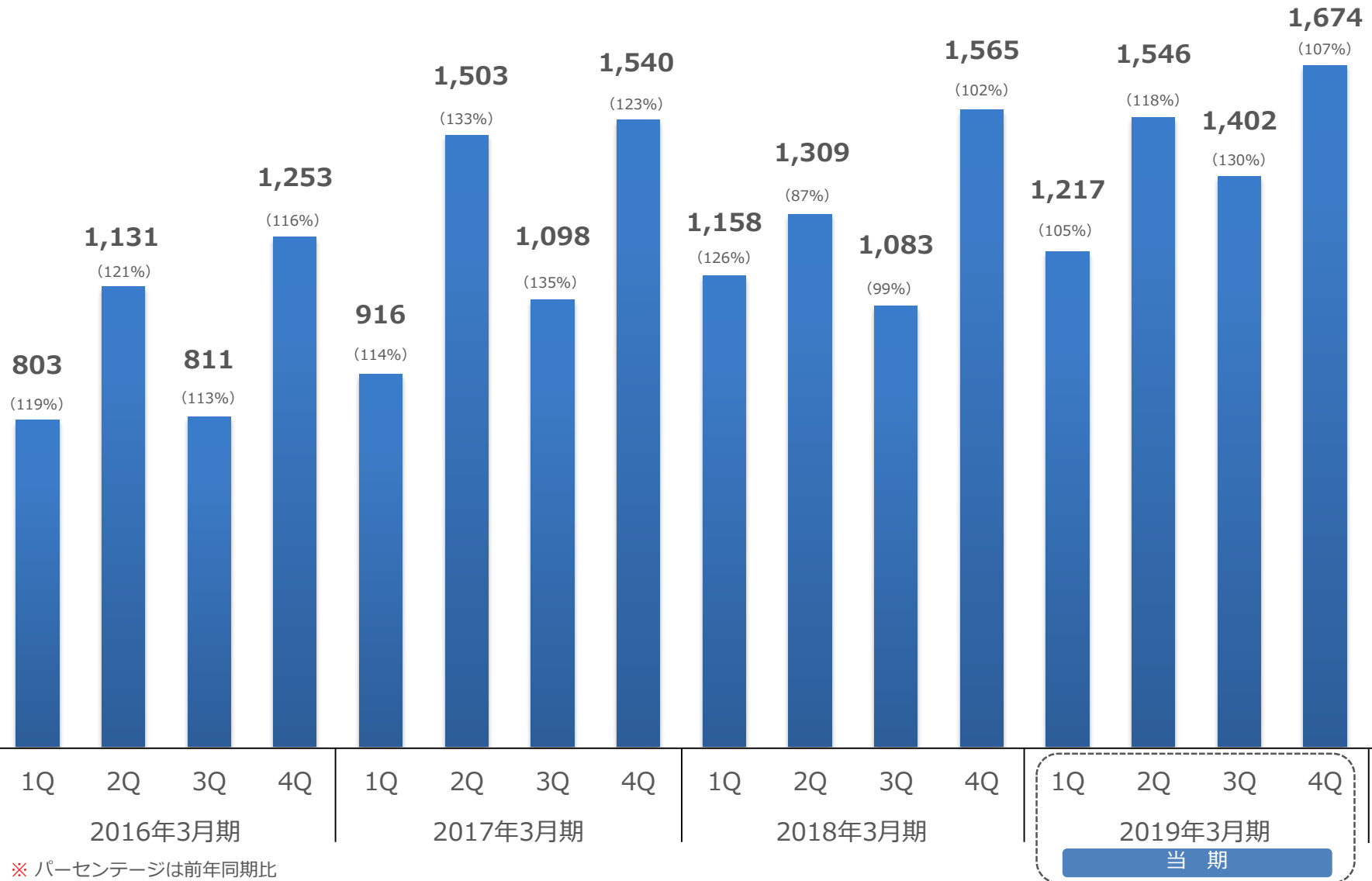
過去最高の売上高



※ パーセンテージは前期比

全ての四半期において前年同期を上回る

(単位：百万円)



※ パーセンテージは前年同期比

- 新製品のリリースに伴う減価償却費負担の増加等あるも、海外戦略の見直しに伴う再編により、経営資源の選択と集中が進み、効率性向上

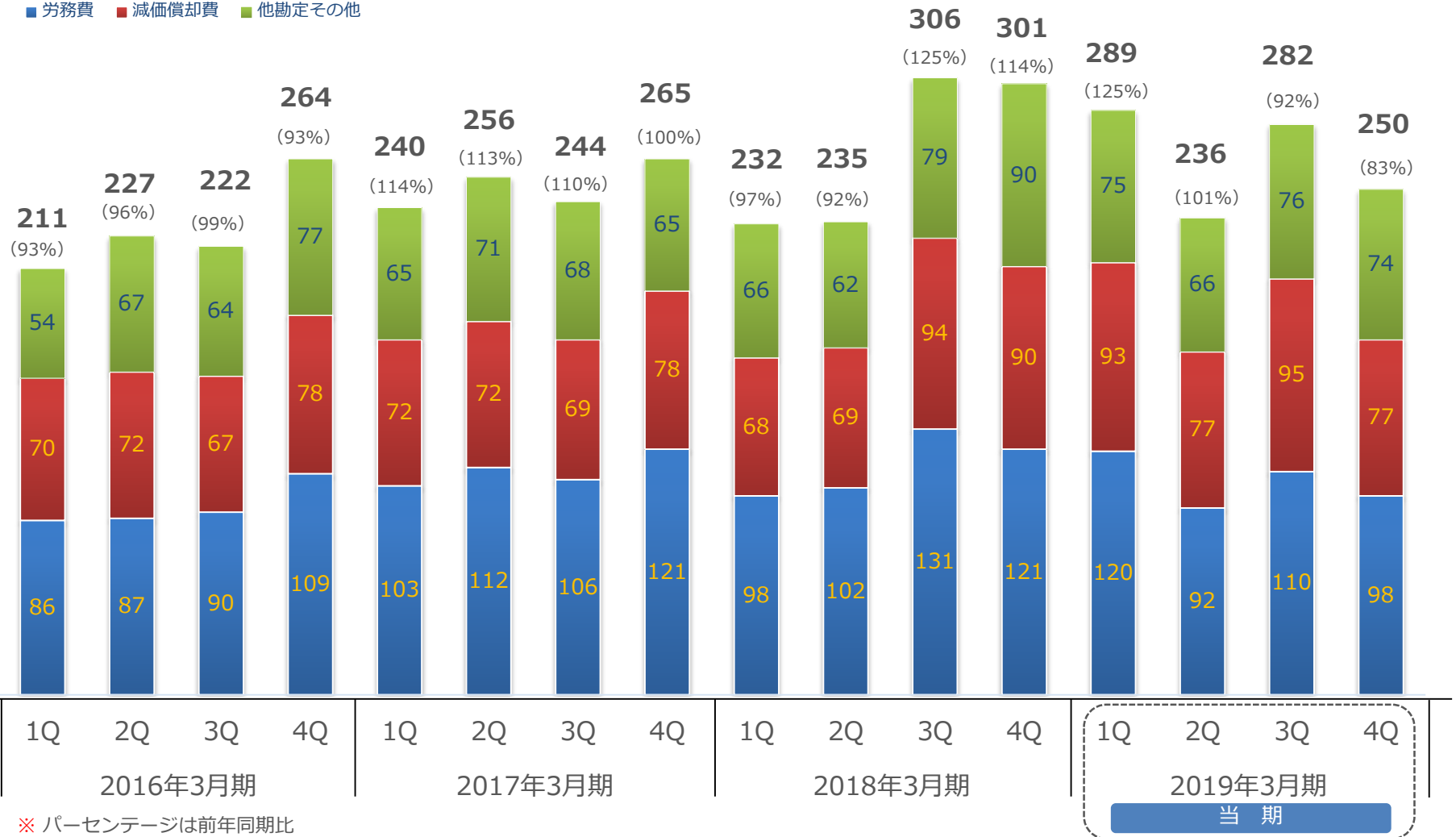
(単位：百万円)

項目	2018年3月期	2019年3月期	前期比	主な増減要因
売上原価	1,075	1,059	△15	
労務費	453	421	△32	
減価償却費	322	343	+21	新製品のリリースに伴う償却費増
他勘定振替 その他製造原価	298	294	△4	
販売費及び一般管理費	2,138	2,152	+14	
人件費	1,050	1,034	△15	
広告宣伝費	287	290	+2	
その他	800	828	+27	外部の専門家等への支払報酬増加

新製品のリリースに伴い減価償却費が増加

(単位：百万円)

■ 労務費 ■ 減価償却費 ■ 他勘定その他

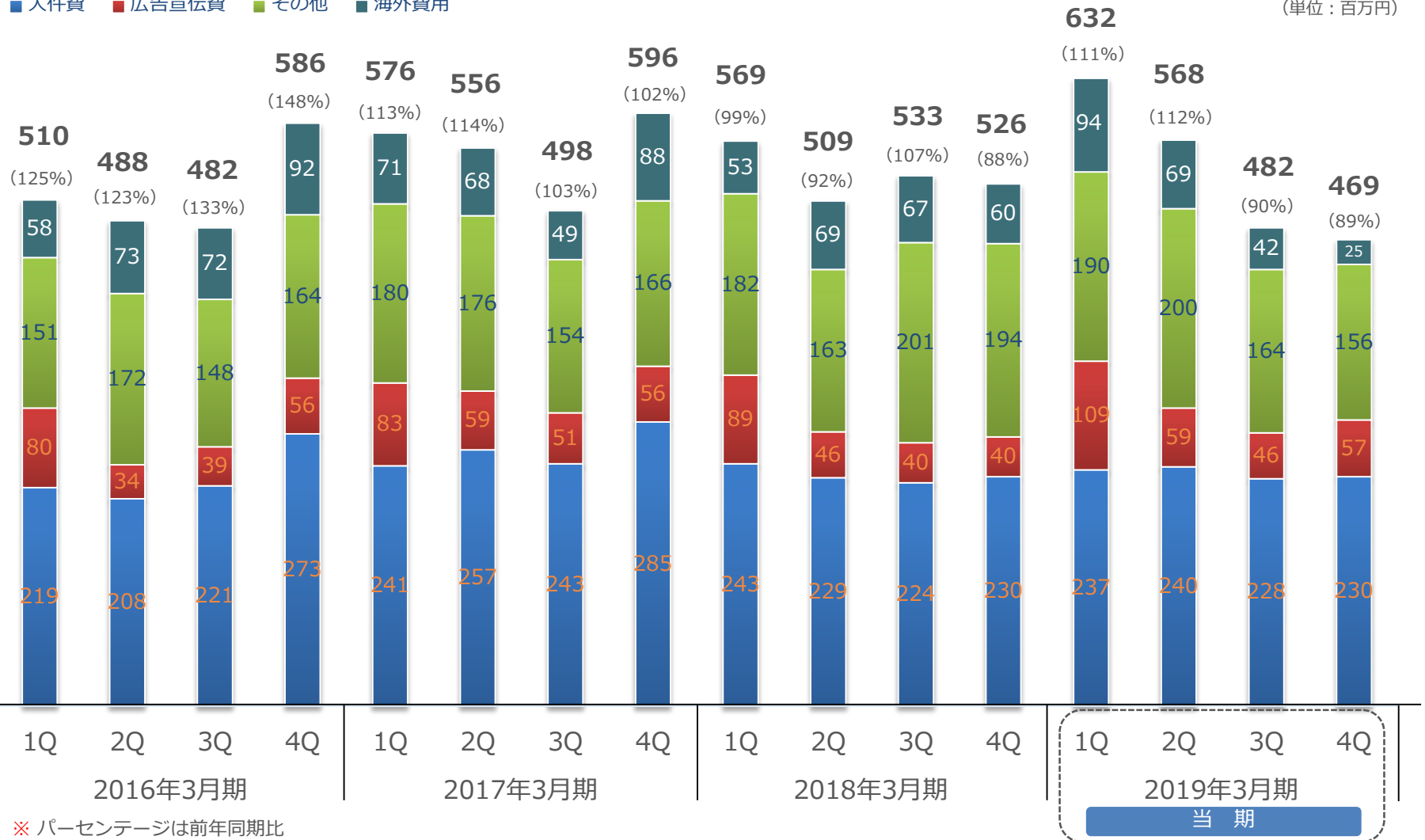


※ パーセンテージは前年同期比

海外戦略の見直しにより、海外費用が大幅に縮小

■ 人件費 ■ 広告宣伝費 ■ その他 ■ 海外費用

(単位：百万円)



※ パーセンテージは前年同期比

2019年3月期 通期決算補足説明資料

市場別詳細

- 連結全体で +14.2% の成長
- 企業向け市場は、クラウド系製品の販売比率が高まり +4.1% の成長
- 公共向け市場は、セキュリティメーカーとしてのプレゼンスが高まり +26.5% の成長
- 家庭向け市場は、青少年のフィルタリング導入が進み +37.4% の成長

連結売上高

売上高 : **5,841** 百万円 (前期比 +724百万円 / +14.2%)

企業向け市場

売上高 : **3,133** 百万円 (前期比 +124百万円 / +4.1%)

公共向け市場

売上高 : **2,191** 百万円 (前期比 +459百万円 / +26.5%)

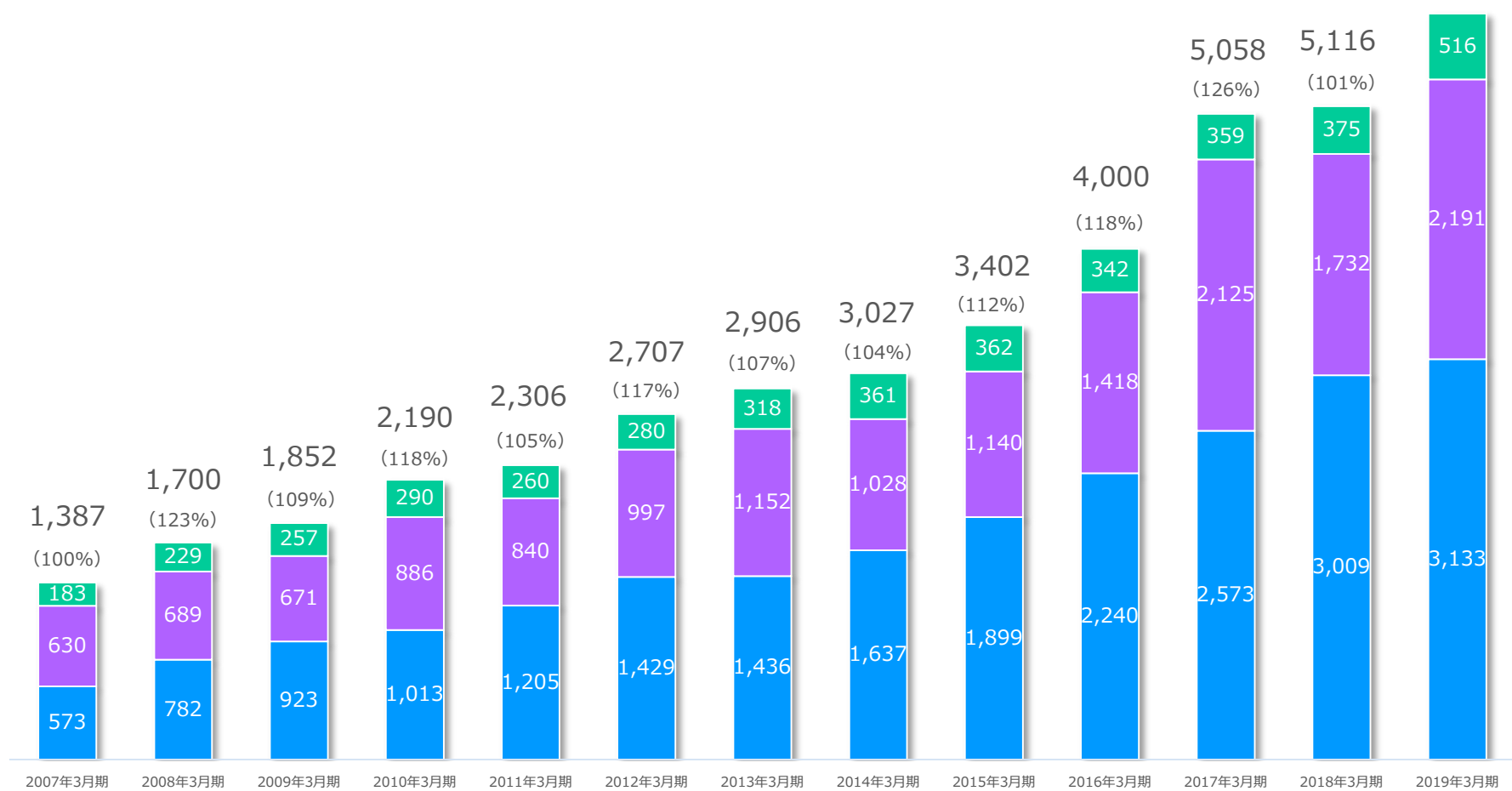
家庭向け市場

売上高 : **516** 百万円 (前期比 +140百万円 / +37.4%)

公共向け市場・家庭向け市場が全社業績を牽引

(単位：百万円)

■ 企業向け ■ 公共向け ■ 家庭向け

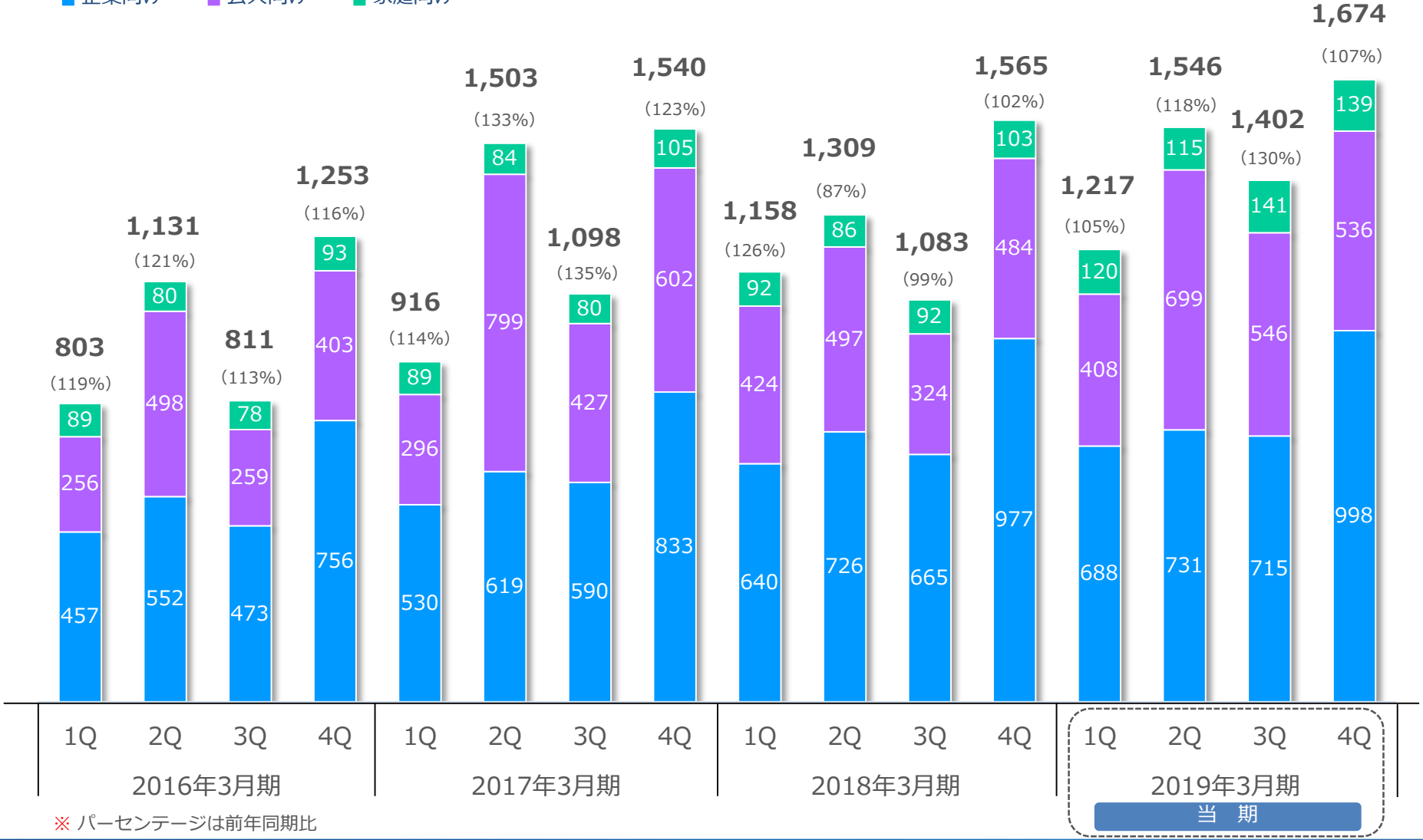


※ パーセンテージは前期比

公共向け市場・家庭向け市場が牽引し、全四半期で増収となる

(単位：百万円)

■ 企業向け ■ 公共向け ■ 家庭向け



※ パーセンテージは前年同期比

2019年3月期 通期決算補足説明資料

企業向け市場

- 前連結会計年度からの継続案件等を中心に着実に獲得した事により、主力製品である「m-FILTER」の販売が堅調に推移
- 「FinalCode」は、従来より要望の高かった「ブラウザービュー」機能を追加した事等により、一時期停滞していた案件が活性化し、過去最大の案件※を獲得
- 「i-FILTER」シリーズのクラウドサービス系製品の販売比率が高まり、受注済売上未計上金額が拡大

※ 売上の計上は契約期間で按分



i-FILTER
Series

前年同期比 **99.7 %**

m-FILTER
Series

前年同期比 **110.7 %**

FINALCODE 前年同期比 **137.8 %**

2019年3月期 通期決算補足説明資料

公共向け市場

- 内部情報漏洩型のセキュリティ対策メーカーとして積み上げてきた実績と信頼性が評価され、標的型攻撃を含めた高度なセキュリティ対策が可能となる「i-FILTER」 Ver.10、「m-FILTER」 Ver. 5 の販売が進む
- 企業向け市場に先行して、公共向け市場における総合セキュリティ対策メーカーとしての存在感が高まる

i-FILTER
Series

前年同期比 **115.7 %**



m-FILTER
Series

前年同期比 **198.4 %**



FINALCODE

前年同期比 **77.2 %**



2019年3月期 通期決算補足説明資料

家庭向け市場

- 2018年2月1日に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が改正され、従来から義務付けられている青少年に対するフィルタリング導入の運用がより厳格化
- 当該改正に伴い携帯キャリアを通じた、フィルタリング導入が進む

パソコン版

前年同期比 **108.2 %**

ゲーム機/TV版

前年同期比 **98.6 %**

モバイル端末版

前年同期比 **199.8 %**

i-フィルター



2019年3月期 通期決算補足説明資料

2020年3月期 通期業績予想

2020年3月期 連結業績予想

項目	2019年3月期実績	2020年3月期計画	成長率/増減率
売上高	5,841 百万円	6,800 百万円	16.4 %
売上総利益	4,781 百万円	5,450 百万円	14.0 %
販売管理費	2,152 百万円	2,150 百万円	△0.1 %
営業利益	2,629 百万円	3,300 百万円	25.5 %
経常利益	2,630 百万円	3,300 百万円	25.4 %
親会社株主に帰属する当期純利益	1,961 百万円	2,277 百万円	16.1 %
1株当たり配当金	48.00 円	50.00 円	—

※ 本日公表の「2019年3月期 決算短信」に記載しております「2020年3月期の連結業績予想 第2四半期（累計）親会社株主に帰属する当期純利益」が対前年同四半期比、減益となっておりますのは、2019年3月期の同四半期には米国子会社清算に伴う節税効果が含まれているためです。
通期におきましては当該影響も吸収し、対前期増益を確保する見込です。

2020年3月期 個別業績予想

項目	2019年3月期実績	2020年3月期計画	成長率/増減率
売上高	5,752 百万円	6,600 百万円	14.7 %
売上総利益	4,724 百万円	5,400 百万円	14.3 %
販売管理費	1,949 百万円	2,100 百万円	7.7 %
営業利益	2,774 百万円	3,300 百万円	18.9 %
経常利益	2,777 百万円	3,300 百万円	18.8 %
当期純利益	1,784 百万円	2,290 百万円	28.3 %

■ 配当について

株主の皆様に対する利益還元につきまして、以下の通り計画しております

2020年3月期の目標配当性向を連結当期純利益の30.5%

2020年3月期年間剰余金配当予想額は **1株当たり 50.00円**

	1株当たり配当金（円）			連結配当性向
	中間	期末	合計	
2019年3月期	18.00	30.00	48.00	34.0%
2020年3月期（予想）	25.00	25.00	50.00	30.5%

2019年3月期 通期決算補足説明資料

2020年3月期の取り組み

■ セキュリティ業界の環境

脅威の多様化・高度化

- 日本はもとよりグローバル規模で、特定の企業・組織、国家機関を狙った標的型攻撃など外部からの攻撃による脅威が多様化・高度化
- 新たな脅威への新しい対応が不可欠な状況

セキュリティ運用の負荷軽減に対するニーズ拡大

- 上記のような環境の中、セキュリティ運用の外部委託や、運用負担を軽減するセキュリティ製品のクラウド化が加速
- オリンピック・パラリンピック、IoT、自動運転等の新しいニーズの拡大

■ 企業および公共向け市場の取り組み

「i-FILTER」 Ver.10、「m-FILTER」 Ver.5、「FinalCode」は更なる製品強化、拡販を推進

- 最新版の「i-FILTER」 Ver.10、「m-FILTER」 Ver.5は、2,800社（施設）・360万ユーザー（2019年3月末時点）に利用されており、複雑化・多様化する標的型攻撃に対して、両製品が有効に機能したことを示す豊富な事例が集まっており、今後は当該事例を活用しながらさらなる顧客開拓を推進する
- 「FinalCode」は、導入運用の課題を解決する新バージョンの開発を進めており、その提供と共に提供方法や価格の見直しを行い、さらなる顧客開拓を強化する

「DigitalArts@Cloud」の認知度向上と販促活動推進

- セキュリティ運用の負荷軽減を目的としたクラウドサービスの利用が加速する中、「DigitalArts@Cloud」の販売が拡大
- 構築や運用の手間を軽減できるというクラウドサービスの優位性を最大限活かしながら、「i-FILTER」、「m-FILTER」、「FinalCode」の各製品の強みを連携し、利便性向上と高度なセキュリティの両立等、高付加価値のサービスへと進化させ、拡販を推進する

■ 家庭向け市場の取り組み

拡大するインターネット被害に対しフィルタリング導入を推進

- 青少年のスマートフォン利用拡大を背景として、スマートフォン等を通じたインターネット被害が益々拡大
- 携帯キャリアを通じた家庭向け「i-フィルター」の提供を中心に他社との協業を強化し、顧客開拓を推進

本プレゼンテーション資料に記載されている計画、戦略、財務的予測のうち歴史的事実でないものは、将来の見通しに対する記述であります。本見通しは、当社経営陣が現在入手可能な情報に基づき判断したもので、環境等の変化により大きく見通しの変動する可能性があり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。今後、重要な変化がある場合は適宜開示します。

本プレゼンテーションの基本的な数値の記載は、一部を除き百万円未満を切り捨てて表示しています。

- デジタルアーツ、DIGITAL ARTS、i-FILTER、info board、ARS、ActiveRatingSystem、ACTIVE RATING、ZBRAIN、D-SPA、SP-Cache、NET FILTER、White Web、m-FILTER、m-FILTER MailFilter、m-FILTER Archive、m-FILTER Anti-Spam、m-FILTER File Scan、Mail Detox、i-フィルター、DigitalArts@Cloud、Dアラート、当社・当社製品関連の各種ロゴ・アイコンはデジタルアーツ株式会社の商標または登録商標です。
- FinalCodeはデジタルアーツグループの登録商標です。
- その他、記載された会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

DigitalArts®

-より便利な、より快適な、より安全な
インターネットライフに貢献していく-